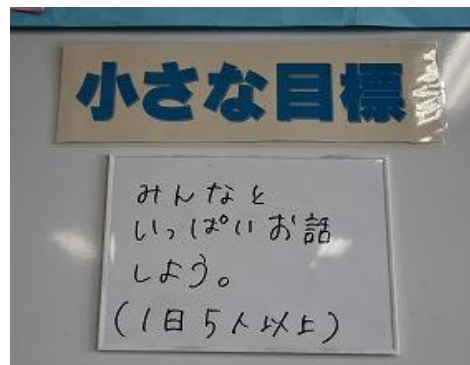


令和7年4月18日(金)

50th
ANNIVERSARY



3年生の教室に入ると後方のホワイトボードに、小さな目標「みんなといっぱいお話ししよう(1日5人以上)」と書かれていました。日直からの呼びかけでしょうか、または係活動や委員会からの呼びかけでしょうか。発信者はわかりませんが、新学期らしいメッセージだなと思いました。毎年クラス替えがあるので、3年生ともなればこれまで多くの人とコミュニケーションをとったり、友達関係を築いたりしてきたはずです。それでも、新しいクラスになると、人間関係の構築に期待感とともに多少の緊張感があるのだらうと推測します。新たな出会いは、自分を知ってもらう努力と相手を理解する努力を少なからず要するものです。コミュニケーションは、人によって得手不得手があることは事実ですが、特に苦手な人は勇気を振り絞らねばならない場合も出てきます。人は人の中で成長できる部分が大きいので、学校の中で様々な人とコミュニケーションをとることは、社会に出るために必要な資質を養っていることになります。



2年生の教室では国語の授業を行っていました。教科書の表紙をめくると、牟礼慶子(むれ けいこ)さんの「見えないだけ」という詩が出てきます。本時は、この詩についての授業でした。ねらいは、詩の主題を考えることです。生徒たちは、自分なりに詩を解釈し、作者が伝えたいことを考え、発表しました。以下に、その一部を紹介します。

見えないだけ
牟礼慶子

空の上には
もっと青い空がうかんでいる
波の底には
もっと大きな海が眠っている
胸の奥で
ことばがはぐくんでいる優しい世界
次の垣根で
蕾がさし出している美しい季節
少し遠くで
待ちかねている新しい友達
あんなに確かに在るものが
まだここからは見えないだけ

- 見えるものがすべてではない。
- 「まだ」だから、もう少ししたてば、今まで見えなかったもののも見えるようになってくる。
- 身近なものだけではなく、世界にはもっと美しいものがある。
- 見えないけれど感じることはできる。
- 今ここにあることを大切にしてほしい。
- あたりまえに知っていることでも、見えないものはたくさんあるということ。
- 今は見えないけれど、いつかは見ることができる。

国語の先生は、「この詩は、これから様々なことを勉強していくにあたっての、みなさんへのエールなんじゃないかな。」と優しく微笑んでいました。

昨日に引き続き、午後は、みんなの学級・1年生の保護者会及び部活動説明会がありました。お忙しい折に、たくさんの保護者の皆様にご来校いただき、深く感謝申し上げます。部活動は、中学校生活に張りや充実感をもたらしてくれるものの一つです。今、仮入部期間中ですが、お子様とよく話し合い、自分にあった部活を選んでほしいと思います。3年間続ける覚悟を持つということも、部活を選ぶにあたって大切なポイントです。